

平和啓発事業のご紹介

■平和の集い「留萌市平和祈念式典」(戦没者・殉難者追悼式)



▼戦没者や戦争犠牲者の追悼にあわせ、戦争の悲惨さを後世に伝え、平和の大切さを改めて思い起こしてほしいという思いを込めた式典です。

ご遺族だけではなく、多くの市民の皆さんのご参列をお願いします。

- 日 時 8月20日(火) 13:00
- 場 所 中央公民館 講堂
- その他 参列される方は、12時50分までに受付をしてください。

☎市・総務課 ☎42-1801

■図書館で開催する事業

1 アニメ・記録映画上映会

- 日 時 「戦争が終わった夏に」
8月11日(日) 10:30
18日(日) 13:30
「慟哭(どうこく)の証言」
8月11日(日) 13:30
18日(日) 10:30

●場 所 市立留萌図書館 視聴覚室
○「戦争が終わった夏に」(74分)は樺太引揚船「小笠原丸」にその夏、何が起こったのかを描いたアニメです。「慟哭(どうこく)の証言」(70分)は三船殉難の証言を記録したドキュメンタリーです。

2 平和資料展

平和への祈り～今に伝える戦争の悲劇～

- 日 時 8月4日(日)～28日(水)
 - 場 所 市立留萌図書館 ホール
 - 展示図書
「留萌沖の悲劇」
「月刊ダン 昭和50年8月号終戦特集 留萌沖に消えた千七百人」
「樺太終戦秘話 三船殉難の記録」など
- 今を生きる人々に伝えるために、戦争の悲惨さや戦時中の過酷な生活などに関する図書を展示、貸し出します。

☎市立留萌図書館 ☎42-2300

■原爆資料展

「広島・長崎原爆パネル展」

▼昭和20年8月、一瞬にして21万人以上の人命を奪ったのは、2発の原子爆弾でした…。

- 日時及び
展示場所 7月30日(火)～8月8日(木)
るもいプラザ まちなか賑わい広場
- 8月9日(金)～18日(日)
保健福祉センターはーとふる
- 8月20日(火)
中央公民館 平和祈念式典会場

☎市・総務課 ☎42-1801

■平和の折り鶴募集

▼平和への願いを込めた千羽鶴を募集しています。

- 回収場所
市役所
保健福祉センター
はーとふる
るもい健康の駅
市立病院の
各折り鶴専用ポスト

●その他 留萌市平和祈念式典にささげた後、広島市の「原爆の子の像」へ送付します。

☎市・総務課 ☎42-1801



ご協力をお願いします

下記の日程でサイレンを吹鳴しますので、1分間の黙とうをお願いします。

- 全国戦没者追悼式 8月15日(木) 12:00
- 留萌市平和祈念式典 8月20日(火) 13:00

平成25年度 留萌市平和都市宣言啓発事業

戦争のない平和な未来のために…

終戦から68年が経過した現在、戦争経験者の高齢化が進み、戦争の記憶の風化や若い世代を中心とした平和への意識の希薄化が強く懸念されています。戦争のない恒久平和を目指し、次の世代へ戦争の悲惨さ、平和の大切さや尊さを改めて伝えていきましょう。

留萌市平和都市宣言

留萌市は次のとおり平和都市となることを宣言する。

真の平和を希求することは、人類共通の願いであり、この崇高な理想実現のため、常に努力を続けて行かなければならない。私たち市民は、今日の緊張した国際情勢を認識し、我が国の非核三原則の堅持はもとより、核戦争の脅威を排除するため、地球上から永久に核兵器が廃絶されることを強く願うものである。

ここに留萌市は恒久の平和を願い幸せな市民生活を守る決意を表明し、非核平和都市を宣言する。

昭和59年5月3日

- ※希求：願い求めること
- 崇高：何も比較できない偉大さ
- 堅持：かたく守って他に譲らないこと

が起きました。昭和20年8月22日、終戦から1週間を過ぎたころ、樺太から引き揚げる避難民を乗せた3隻の船が小樽方面に航行中、旧ソ連の潜水艦の魚雷攻撃を受けました。「小笠原丸」は増毛沖で、「泰東丸」は鬼鹿沖でそれぞれ沈没、大破しながらも留萌港にたどりついたのは「第2新興丸」ただ1隻でしたが、傷ついた船体は傾き、船上の惨状は目を覆うものがあつたと記録されています。その際、留萌町警防団や警察署のほか多くの町民が遺体の収容や埋葬、生存者の救護に当たりました。この惨劇によって1,708名の尊い命が犠牲となり、いまでも多くの人々の胸の中に深い傷として刻まれています。



▲市は平成7年に「三船殉難事件」の慰霊碑を建立して冥福を祈っています(平成22年に千望台から海のふるさと館隣接の岬緑地に移設)

特集 2

お問い合わせは

総務課

☎42-1801

平和の大切さを未来に伝えよう

広島に人類史上初めての原子爆弾が投下され、今年で68年を迎えました。

市では、戦争の悲惨さと平和の尊さを後世に語り継ぎ、地球上から永久に核兵器が廃絶されることを願って、昭和59年に「平和都市宣言」を行いました。

これまで、世界の恒久平和を実現するため、広告塔や平和の塔の設置、平和大使派遣事業、原爆写真・ポスター展、戦争記録映画上映など、さまざまな事業を展開してきました。しかし、今もなお世界各地で争い

が絶えることはありません。私たちは強い危機感を持ち、一層平和への努力を強めていかなければなりません。

私たちは、過去の悲惨な出来事を教訓とし、将来の日本を担っていく子どもたちに、平和の大切さを伝える義務があることを忘れず、平和のために祈り、発言し、行動することが大切です。

留萌沖の悲劇「三船殉難事件」

終戦直後、留萌沖である有名な「タイタニック号」の死者数を上回る犠牲者を出した「三船殉難事件」